

歴史文化館ニュース

Vol. 16

2016. 12. 9

『企画展示「表現としての被服 ―学生たちのトライー」開催』

歴史文化館館長 梶山美恵子

今回の展示は生活科学部生活環境デザイン学科前教授の富田明美先生より、担当のクラス・ゼミの学生さんが過去に制作した作品や教授資料等の寄贈を受けたことにより実現しました。

生活科学部は平成3年から現在の名称になっていますが、それ以前は昭和24年の大学開学以来50有余年、家政学部と称されていました。さらにそれ以前は梶山女子専門学校として、学園創設期の名古屋裁縫女学校の流れである被服を中心とした学びの場になっていました。その意味で今回の展示は梶山女学園の原点の分野の展示といえます。

本展示は寄贈品の中から、この十年余の間の被服作品の一部を紹介しています。原寸大の作品や2分の1の雛形作品に囲まれて、カラフルで華やかな被服ワールドの世界に浸ってみてください。一つひとつの作品から、学生たちの素晴らしい創造力・表現力・技術力、そこに込められた思いやこだわり、想像を絶する努力や苦勞の跡を見ていただけるものと思います。

企画展「表現としての被服 ―学生たちのトライー」に寄せて

富田 明美

この度、「表現としての被服 ―学生たちのトライー」と題した企画展が開催される運びとなり、学生たちの学びの一端が、直接ご覧いただけるようになりました。

梶山女学園が名古屋裁縫女学校として誕生してから110余年、学園は歴史を重ね、大きく発展しました。被服教育のあり方も、裁縫技術の継承から、創作能力を身に付けることに主眼を置いた教育へと展開しました。それでも、被服を大切に思い、被服を通して社会に貢献するという精神は、今も引き継がれています。

ところで、被服は、人を外界の危険から守るシェルターとして、また、快適な生活環境を創出する条件として欠くことのできない側面（用の機能）を有する一方、人の変身願望を叶え、人のこころを伝える媒体・美的欲求の表現手段としての側面（美の機能）を有しています。

今回の展示作品は、表現手段としての被服の可能性に学生たちがトライしたものです。社会のさまざまな現象を感受し、素材に「命」を与え、身体に適った「形」を作り、「目と心」に訴える被服に仕立てあげています。



企画展

表現としての被服

―学生たちのトライー―

会場
梶山歴史文化館
(図書館4F)

期間
2016年11月9日～
2017年6月30日

開催日時
毎週水曜・金曜
10:00～17:00

失われつつある伝統技術に危機感を抱き現代風にアレンジして一般に広めようとした作品、機械生産では埋めることができない人の温もりを追求した作品、また、幾度も実験を重ねて一つの作品に具現化した作品、新しい技法を生み出すために未知の素材・道具にチャレンジした作品もあります。時間という制約の中で、被服デザインの無限の広がりチャレンジした学生たちの「思い」を汲み取っていただければ幸いです。

歴史文化館には、学園に学んだ先人たちの貴重な被服作品が所蔵されていますが、その多くは今から数十年も前のものです。この先、50年、100年後には、現代の学生が学んだ足跡や制作品が歴史的に貴重な資料となるかもしれません。歴史をつなぐためには、現代の作品を残す努力も必要です。今回の展示作品の中から、後世に残せるものが見つかることを期待しつつ、作品の紹介をさせていただきました。

【企画展 表現としての被服 ―学生たちのトライー ご案内】

| | |
|--------|-----------------------|
| 【会場】 | 栢山歴史文化館（図書館4F） |
| 【期間】 | 2016年11月9日～2017年6月30日 |
| 【開館日時】 | 毎週水曜日・金曜日 10:00～17:00 |

■『栢山女学園のあゆみ』決定版発行！ DVD も 完成！■

■学園のあゆみ■

28年度初めに6ページ立ての小冊子（仮版）を発行しましたが、このたび12ページ立ての決定版を作成しました。写真や表などを多くとり入れカラフルで分かりやすくなっていますので、栢山の歴史のミニマムを短時間で知っていただけます。さらに、QRコードから学園歌や金剛鐘を聴くことができるようにしました。

また、この冊子の内容に基づいて、文化情報学部裾窪研究室の学生さんにDVDの作成を依頼していましたが、このほど歴史文化館に完成品を贈呈していただきましたので、今後は映像でも栢山女学園の歴史を知っていただけます。ぜひ活用してください。

■DVD 作成担当の学生さんの感想■

栢山女学園の歴史をわかりやすく、テンポよく伝えることを重点に置いて映像を制作しました。映像を制作する上では、

どの年代の方にもわかりやすいナレーションを収録することに苦勞し、時

間をかけて何度も行いました。そうした苦勞もあり、制作者自身にとっても満足 of いく作品が完成しました。この映像から栢山女学園の歴史を学び、それぞれの自分づくりに繋げてもらえたらと思います。



1905年創設
栢山女学園の歩み
～「人間になろう」～

Sugiyama
人間になろう

■【揚輝荘企画展とセミナー 多くの方に来て頂きました！】■

展示 期間 平成28年6月30日～9月28日

平成28年6月末から9月末まで3ヶ月に渡って、揚輝荘の企画展「文教地区としての城山・覚王山～栢山女学園の歴史」に全面協力をしました。

聴松閣2階

第7室

栢山女学園の歴史

第5室

栢小・栢中
地域学習発表

第6室

覚王山地域の歴史

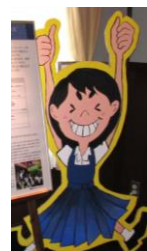
第6室

- ・千種区の文教施設紹介
- ・栢山・覚王山地区の歴史
- ・写真・図版
- ・鳥瞰図と年表



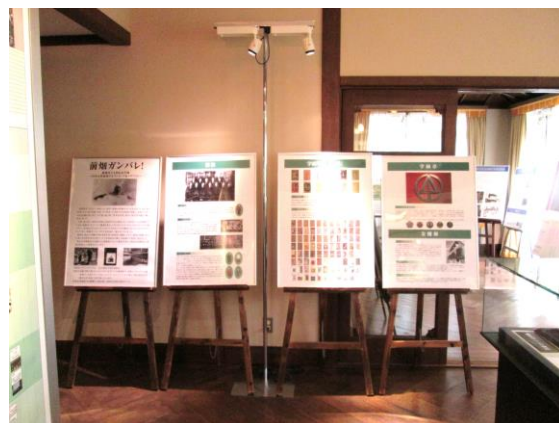
第5室

- ・栢小 覚王山と日泰寺
児童によるタイの踊りの映像
- ・栢中 「総合学習人間になろう」と
フィールドワーク



第7室

- ・学園年表
- ・人間橋と教育理念
- ・初代山添校舎模型
- ・栢山正式・今子
- ・裁縫雛形
- ・映像コーナー
- ・覚王山地区と栢山女学園歴史文化館



セミナー 平成28年7月24日（午後1時～）

展示のコラボレーション企画としてのセミナーではまず小学校の川野幸彦先生による覚王山とタイについての学習の説明、次に中学校の小野菜穂子先生による説明と中1の生徒の発表、最後に歴史文化館館長が城山覚王山地区の発展と栢山女学園の歴史の講演という三部構成で実施しました。



○セミナーで発表した中学校1年生の皆さん○
地域学習のひとつ、揚輝荘訪問班の発表



【寄贈品紹介】

○学園訓／昭和17年（辻内寿々子氏寄贈）○Tシャツ・エプロン／保育園（小林豊子氏寄贈）○写真立て2点（大学開学50周年等）／オルゴール（大学開学60周年）／朱肉入れ（相山藤子叙勲記念）／相山キューピー（加賀谷みえ子氏寄贈）○服飾事典（田中千代著、同文書院、1970年 第3刷）、トレーナー（ふじみ会）（寺社下珠江氏寄贈）○写真2点（明治39年第2回夏季講習会、名古屋裁縫女学校本科第2回卒業生）／教科書類6点（大正期の相山高等女学校で使用）（柴田篤志氏寄贈）

【歴史の窓】

■歴史文化館所有の最古の写真について■

歴史文化館には、明治38年頃の開校当初に行われた点茶の授業風景を撮影したと思われる写真があります。しかし、実物写真ではなく複写を重ねた写真でした。

平成28年10月に卒業生のご遺族の方から寄贈された明治39年の写真は、実物写真であると同時に、裏書に年代が示されていることから、年代の確認できる実物写真としては、最古のものであると言えます。

最古の写真には「明治39年8月 第2回夏季講習会員」と記されています。今から110年も前のことです。夏季講習とは、夏休みを利用して名古屋裁縫女学校で2週間ほど開催されたものです。小学校に於ける裁縫教授法研究やそれ以外の手芸研究を中心に、教授法、裁縫、編物、造花等々の科目を設け、名古屋市内外の小学校裁縫教師や生徒が受講していたと「糸櫻」（学園の年誌「糸菊」の前身）に記されています。

開校間もない頃にあつて、裁縫教育への取り組みが盛んであったことを伝える写真です。



【編集後記】

「生活環境デザイン学科展」に引き続き、現在「被服」をテーマにした企画展を開催しています。

学生さんが制作した数多くの衣装や雛形作品が並び、華やかな展示となっています。また、各作品についての解説も掲示されているため、制作工程を知るとともに被服の世界に触れるきっかけとなるのではないのでしょうか。足を運んでいただければ幸いです。

歴史文化館ニュース 第16号

発行日 2016年（平成28年）12月9日

編集・発行 相山歴史文化館

名古屋市千種区星が丘元町17番3号

TEL 052（781）1186（代）

052（781）4590（直）

編集担当者 相山美恵子 村瀬輝恭 溝口紗恵香